

徳島県立文学書道館 書道特別展

あふれる心情

會津八一の書

林下十年夢

湖邊一笑新

會津道人

「林下十年夢・湖邊一笑新」新潟市會津八一記念館蔵



會津八一(1943年 三浦寅吉撮影、新潟市會津八一記念館蔵)

みほとけのあことひちとに

あまのそらのあまの

ひかりのともしきこのかも

中宮寺にて

會津道人

「みほとけのあことひちとに」新潟市會津八一記念館蔵

2017年 2月16日(木)～3月20日(月・祝)

展示解説 2月26日(日) 14:00～15:00

講師／森上洋光氏(四国大学教授)

申し込みは不要ですが、観覧券が必要です。

講演会 3月12日(日) 10:00～11:00

講師／神林恒道氏(新潟市會津八一記念館館長)

申し込みが必要です。下記の申し込み方法をご確認ください。

作品解説 3月12日(日) 11:10～12:10

講師／角田勝久氏(新潟大学准教授)

申し込みは不要です。

講演会の申し込み方法

往復ハガキ(1人1枚)に、「會津八一展 講演会」、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号をご記入の上、当館まで郵送してください。当館1階受付でもお申し込みいただけます。

開館時間 9:30～17:00

休館日 月曜日(ただし3月20日は開館します)

観覧料 一般 510円(400円)／高校・大学生 350円(280円)

小・中学生 250円(200円)

常設展もご覧いただけます。

()内は20人以上の団体割引料金。

小・中・高校生は土・日・祝日は無料です。

高齢者(65歳以上)と各障がい者手帳をお持ちの方は半額です。

主催 徳島県立文学書道館

特別協力 新潟市會津八一記念館

後援 徳島県教育委員会・徳島新聞社・四国放送

言の葉ミュージアム

徳島県立文学書道館

〒770-0807 徳島市中前川町2丁目22-1

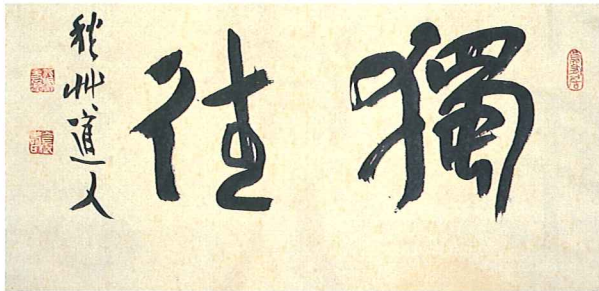
TEL 088-625-7485 FAX 088-625-7540

http://www.bungakushodo.jp

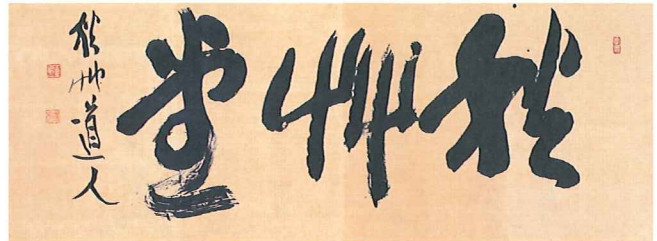
歌人で東洋美術史学者、そして書家でもあった秋 艸道人こと會津八一(1881~1956年)。八一は平明さ、
 分かり易さを自身の芸術における第一義とし、書においても実践しました。

師につかず、自ら信じる道をひた走り、「独往の書家」とも呼ばれた八一。おおらかな心情にあふれ、観る
 者に安らぎを与えてくれるその書は、彼の深い学識と人格がにじみ出たものです。

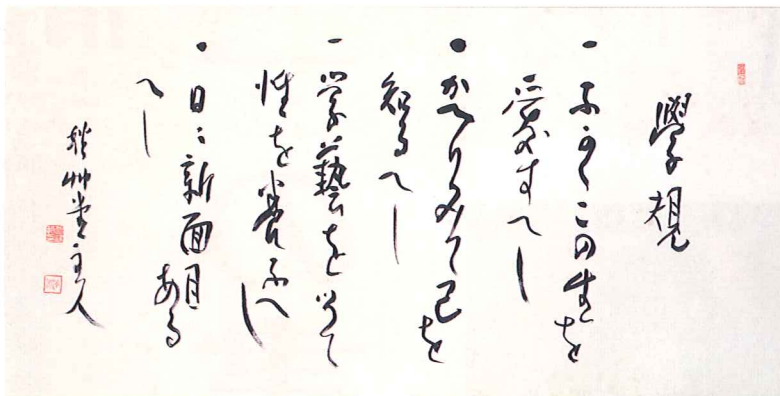
本展では新潟市會津八一記念館所蔵の八一の書、約70点を紹介します。しばし時を忘れて、八一の書の
 世界をご堪能ください。



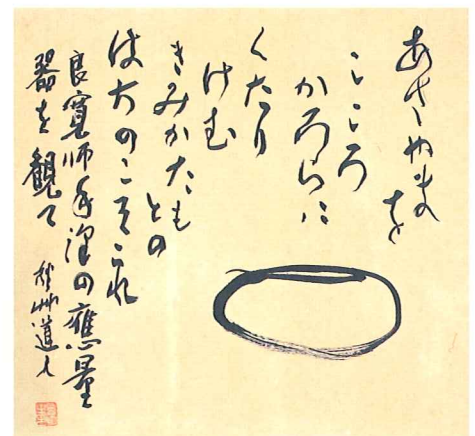
「独往」28.5×57.5 cm



「秋艸堂」33.0×87.5 cm



「学規」33.0×87.5 cm



「鉢の子図・あさやまを」31.2×33.9 cm

會津 八一 あいづ やいち

1881年、新潟市生まれ。歌人、東洋美術史学者、書家。少年時代より文学に親しみ、20歳で地元紙・東北日報の俳句
 選者となった。早稲田大学文学科を卒業後、英語教師となる。その後、独学で美術史を研究。45歳から早稲田大学で東
 洋美術史の講座を担当し、50歳で同大文学部教授、53歳で文学博士となる。東京大空襲で罹災した後、故郷・新潟で暮
 らした。1956年、死去。歌集に『南京新唱』、『鹿鳴集』などがある。新潟市名誉市民。

●交通アクセス (JR 徳島駅から)

徒歩 約15分

JR 徳島駅西側のポッポ街を抜け右折し
 ます。踏切と助任川を越え、3つめの信
 号交差点を右折し約300m。徳島中学校
 東隣。

バス

〔徳島市営バス〕7番乗り場「川内循環
 線(右回り)」に乗りし「吉野本町2丁目」
 で下車、徒歩約5分。

〔徳島バス〕2番乗り場「前川経由」に
 乗車し「吉野本町2丁目」で下車、徒歩
 約5分。

タクシー・自動車 約5分

国道192号線、藍場町交差点を北進、
 助任川を渡り、4つめの信号を右折し
 約300m。当館北側に駐車場がありま
 す(43台・大型バス2台)。

●展示のお知らせ

春の書道収蔵品展 — 貫名菘翁 —
 3月22日(水)~6月18日(日)

